

令和2年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校 ○安心・安全な学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況	
<p>【学習指導】</p> <p>分かる授業づくりを推進し、校内研修会・校内授業観察・近隣小中学校の授業視察等を実施したことにより教員の授業に対する意識が向上し、授業改善が図られている。学校で学んだことを卒業後の生活にどのように生かすことができるかを生徒に自覚させることにより、主体的な学びを促し、学習意欲の向上を図る。</p> <p>【生徒指導】</p> <p>服装や頭髪に関する指導は、減少傾向にあり、各種講演会やスクールカウンセラーの活用等を含めた取り組みにより、落ち着いた生活ができている。服装頭髪指導は職員の共通認識のもと実施する。交通ルール、マナーに関する意識の高揚を図る。スマホ安全教室の全校生徒対象での実施およびトラブルのないネット利用の啓発。</p> <p>【進路指導】</p> <p>生徒の進路希望に応じた進路ガイダンス等の行事・面接・課外指導が実施できた。進路決定率は100%を達成できた。進路情報の生徒へのより迅速な通知と周知徹底と生徒個々に応じたよりきめ細やかな指導を図る。</p> <p>【特別活動】</p> <p>生徒会の活動を中心に学校行事の運営を図ることはできた。部活動への入部者の増加は期待通りにはいかなかった。部活動の活性化については継続的に考えていきたい。</p>	生徒の個人的資質の向上に努める。	挨拶の奨励、遅刻・欠席の防止等、基本的な生活習慣の徹底やコミュニケーション能力の向上 授業・部活・行事など学校教育活動全体を通して生徒の自己肯定感、達成感や学校帰属意識の向上		
	専門的知識の育成に努める。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と分かる授業の展開による学力の向上 商業に関する専門的知識の修得と実践的・体験的な学習の充実		
	保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。	募集人員の定数確保とキャリア教育充実による進路実現100% 出前授業やHPを活用した教育活動の効果的な情報発信 ボランティア活動や地域でのビジネス活動の充実		
	生徒一人一人の学力や個性を伸ばす学校づくりに努める。	指導方針に関する職員全員の共通理解・実践（同じベクトル）モチベーションの向上 組織マネジメントを推進し、学年会、教科会、運営委員会、職員会議での活発な意見交換による学校経営・業務の改善		
	安心・安全な学校づくりに努める。	いじめ・体罰・災害等の防止や迅速な対応 HR、授業、二者面談や三者面談を活用しての生徒一人一人に対する丁寧な理解		
	校務の負担軽減と合理化に努める。	負担軽減のために校務の見直し 校務の合理化		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科	国語	継続的な理解力や表現力・基礎的な知識等の習得を重視した学習体制を敷く。	授業内容の理解度をノートや課題集の点検を用いて評価する。		
			長期休業中においても自主的に国語力を伸長する機会を設ける。		
		場に応じた適切な表現の体験を通して、自己を見つめようとする意欲の向上を図る。	スピーチや意見を検討する機会を設けて、自分の考えを構築し、発表する機会を設ける。		
			俳句や短歌の創作等、書く行為によって、自分の心と向き合う機会を設ける。		
		漢字検定を積極的に受検させ、将来の進路に活かす。	課外や課題プリント配布などにより、効率的な学習のサポートを行う。		
	社会	時事的な話題等を積極的に授業に盛り込み、授業への興味・関心を高める。	視聴覚教材や新聞、インターネット等の資料を効果的に活用する。		
			発問を工夫し対話型の授業展開を心がけ、生徒への授業の参加を促す。		
		教科の基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやノートの指導（点検）等、きめ細かい指導を行い、基礎・基本の習得に努める。		
	数学	教科書の内容に基づく基礎学力の定着を図り、発展的な事象も取り扱う。	多くの例題を通し、基礎基本及び発展的学習において体験的に理解できるように工夫する。		
			生徒とのコミュニケーションを図り、苦手な生徒には個別に対応する。		
		基礎的な計算力を身に付けさせる。	課題や授業中の問題演習を通して、計算させる機会を増やす。		
	理科	基礎的な学力の向上を図る。	生徒と教員、生徒どうしのコミュニケーションを重視した授業を行い、必要に応じて課外等のサポートを実施する。		
科学に対する興味・関心を高め、科学的思考力を身につける。		日常生活にあふれる理科現象や身近な物質を取りあげ、科学全般に対して関心を持たせる授業展開に努める。			
物理実験室・化学実験室の整備と授業での活用を高める。		計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・実習・モニター視聴等の授業を取り入れる。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。		
	できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率80%以上を目指す。		
	体育的・学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。		
	よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。		
保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	最近話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。		
英語	基礎学力の向上に努める。	単元ごとに確認テスト・小テストを実施し、知識の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。		
		課題や学習ノート提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。		
	資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように合格対策課外等を実施する。		
	実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	ALTとのTTなどを存分に活用し、コミュニケーションに必要なリスニング・スピーキング能力を高める。		
ペアワーク・グループワークを取り入れ、他者とのやりとりを通じて考えを深めて、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。				
家庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力や態度を身につけさせる。	実験・実習を取り入れ、具体的でわかりやすい授業を展開する。		
		プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。		
		実習を通して、強い精神力や協調性、自主・自立の精神を育成する。		
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。		
商業	学力・指導力の向上を図る。	学力・指導力向上のために日々の授業を大切に、学習意欲の喚起と検定試験等の合格率を高める。		
		科目ごとに授業研究を行い、工夫改善をして授業の指導力向上に努める。		
	商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。		
	ビジネスにおける実践力の育成を図る。	総合実践をはじめ、すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務	教員の指導力および生徒の学力向上を図る。	授業の工夫改善をし、主体的・対話的で自ら考え、学ぶことによる分かる授業を行う。		
		教員の指導力向上のために、授業の相互参観期間を設け、校内外研修の機会を活用する。		
	教育課程の編成に努める。	生徒たちの資質・能力を引き出し、社会の要請に応えられる人材の育成に繋がる教育課程を編成する。平成4年度入学生教育課程の編成に務める。		
	学習意欲の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	成績不振者に対する日頃からのきめ細やかな指導と補習や課外を計画的に行う。		
	内規の検討を行う。	本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。		
	授業時間の確保に努める。	休業中の授業時間の確保		
	情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を適正に管理する。		
	H P の適正な運営と教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成とそれに沿った活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がける。		
校務分掌 生徒指導	生徒全員に朝の挨拶をさせる	登校指導における挨拶、廊下での挨拶をしていく。		
	服装・頭髪等について校則を守らせる	登校指導、授業、休み時間等において、違反を見逃さず、全職員で呼びかけていく。		
	遅刻者数を大幅に減らす	8時35分過ぎに昇降口と教室でダブルチェックをして遅刻の取り扱いを統一する。昇降口で声掛けをして教室に早めに着くよう促す。		
	交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ	校外立哨指導を実施したり、普段からHR等で注意を呼びかけてもらう。また、自転車点検・交通安全講話、バイク実技講習会等を実施する。		
	問題行動を未然に防ぐ	立哨指導や昼休みの校内巡回で生徒の動向を把握したり、服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。また、自転車の盗難防止のための鍵かけを促す。		
	教育相談活動の充実	教師の指導に加えて、スクールカウンセラーによる生徒へのカウンセリング、保護者への指導・助言等により、教育相談体制の一層の充実を図る。		
特別活動	生徒会・HR活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。		
	部活動加入率50%を目標とし、年間を通してのその維持に努める。	各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。		
		部活動の生徒を中心に、学校周辺の美化活動等に取り組む。		
	体育的行事、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	委員会の生徒を中心とした活動を活発化させることで、学校行事の充実を図る。		
活動を通してキャリアパスポートを推進する。	多くの行事を通して、自ら計画・振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
校務分掌	進路指導	進路について理解を深め、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	進路ガイダンスの内容や時期を見直し、年次に応じた適切なガイダンスの実施に努める。		
			インターンシップや会社見学、各学校のオープンキャンパスへの参加を促し、入社・入学後のミスマッチが起こらないように努める。		
			「進路の手引き」を発行し、希望進路の実現に活用させる。		
		進路に関する情報提供を充実する。	大学・短大・専門学校、企業、ハローワーク等と連絡を密にし、情報収集に努め、生徒に的確な情報を提供する。		
		進路資料室の効果的な活用を目指す。	生徒・教員・保護者などが資料を閲覧しやすいように、情報提供の仕方を工夫し、レイアウトや資料の整理などに努める。		
	環境整備	清潔な環境を目指す姿勢を育てる。	教室等のワックス塗布やモップの交換を通して、生徒の美化意識の向上に努める。		
			効率よく環境整備をするためのアイデアを出し合い、創意工夫の能力の育成に努める。		
			清掃道具を速やかに補充し、生徒自らが意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。		
		環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	より清潔できれいな学校にするための中・長期的な計画を、生徒ともに模索する。		
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	保健室の効果的な運営に努める。		
			諸検診の効果的な実施に努める。		
			専門家による性教育を実施する。		
学校生活の安全教育に努める。		防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。			
学習環境を整備する。		エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。			
		水質検査および室内環境検査等を実施する。			

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
校務分掌	図書	生徒の読書センターや情報センターとして図書室環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援したり、情報収集・選択・活用能力を育成する。	わかりやすい蔵書の配置・親しみやすく内容が充実した装飾にも努め、図書室を利用しやすい環境に努める。		
			図書館資料を整理し、蔵書のデータベース化を図り、貸出し返却手続等を迅速に行えるよう努める。		
		読書指導と読書の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。		
			新刊本の表紙をカラーコピーし、教室・廊下等に掲示し、資料の提供を行う。		
			生徒・教職員に対して、リクエストボックスをとおして購入希望図書を募り、随時購入希望を受け付ける。		
	図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して新着図書案内を行い、読書に対す関心を高める。			
		図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員活動の主体性を図る。			
	渉外	PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	PTA総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。		
			学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。		
			会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。		
鬼朋祭やさわやかマナーアップ運動等の学校行事への保護者の積極的な参加を促す。					
PTA支部研修会を実施し、保護者・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。					
50周年記念事業に向けて、同窓会の組織・強化に努める。		同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、記念事業の準備を進める。			
スクールバスの安心・安全な運行を継続する。	スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。				

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
一 学 年		挨拶の励行と礼節をわきまえた行動を意識させる。	SHRや授業において、正しい挨拶・服装の指導をこまめにおこない、生徒に定着させる。		
		欠席・遅刻・早退を増やさず、時間厳守の意識を持たせる。	遅刻・欠席・早退の問題点と時間を守ることの重要性について、意識させる指導をおこなう。また、生徒が意欲的に通学できる環境を整える。		
		鬼怒商業の生徒である自覚と責任をもち、規範意識を高める。	本校のルールをしっかりと理解させ、服装・頭髪及びスマートフォン使用に関するマナー指導も徹底し、規範意識の向上に努める。		
		授業・学校行事の大切さを理解させる	適切な態度で授業を受け、基礎学力を定着させることが学ぶ喜びにつながるよう指導をおこなう。学校行事や資格取得に積極的に取り組むことで、将来に向けての可能性が開けることを進路ガイダンス等で指導する。		
		進路についての意識を高めさせる。	適切な内容で進路ガイダンスを実施し、将来を見据えた計画性のある学習活動ができる環境を整える。		
二 学 年		挨拶や他人を思いやる気持ちを持って職員や生徒同士と接し、コミュニケーション能力を高める。	人間関係の第一歩は挨拶。気持ちのいい挨拶を習慣化し、かつ相手の気持ちを考えて、積極的に会話を交わすことで、コミュニケーション能力を高めていく。		
		集団生活の中で、時間や提出期限等の約束及びルールを守る。	時間や約束を守るということは、社会人としての最低限度の必須項目である。その必須項目を実践させることによって、ルールやマナーを遵守できる信頼される人物を育成する。		
		学校行事に積極的に参加する。特に、修学旅行を有意義なものにする。	集団生活の中ではなぜルールやマナーがあるのか、その意味を理解して行動させる。他人に迷惑をかけない。		
		商業高校の特色を生かした授業を実践し、資格取得に向けて意欲的な学習をする。	普通科では学ぶことのできない専門科目の知識を深め、資格取得等で結果を残すことによって生徒に自己肯定感を高めさせる。		
		生徒が自分の適性を把握し、その適性に合った進路を実現できるように計画的な準備を進める。	自分の適性を理解し、その上で卒業後の進路が自己実現できるよう適切な進路ガイダンスや、進路指導計画を実践する。		
三 学 年		社会人となることを念頭にいた時間厳守の定着	社会人として時間を守れない人物は信用されない事を意識させ、登校時間や移動教室、集会などあらゆる場面において決められた時間厳守を徹底する。		
		社会規範や校則の遵守	社会人としてコンプライアンス（法令遵守）は大切であり、それを踏まえて社会規範や校則などを遵守する意識を高める。		
		コミュニケーション能力の更なる向上	進路面接を意識したあいさつや言葉遣いのみならず、商業高校で学んだ生徒としてビジネスコミュニケーション能力を身につける。		
		生徒の進路自己実現を支援	生徒全員が高校卒業後の進路を決定できるよう、適切な進路行事を計画・立案・実行し、生徒の進路決定を学年職員全員で支援する。		
		情報ビジネス科における高度資格取得の実現	高度資格（全商簿記1級、ITパスポート等）の20名以上の合格者数を目指し、進路につなげる。		

※ 評価基準 A：目標をはるかに上回った B：目標を達成できた C：目標にわずかに届かなかった D：不十分